

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070700689
法人名	特定非営利活動法人 グループホームやまびこ
事業所名	グループホームやまびこ
所在地	福岡県北九州市八幡西区町上津役東3丁目10番16号
自己評価作成日	平成23年8月5日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成23年9月9日	評価結果確定日	平成23年10月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様ほとんどが高齢な為、今だからできること、今しかできないことに力を入れ、利用者様一人ひとりが望むことを、日々悔いのないように個別ケアに生かし、取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

一軒家を改築したホームは周囲に溶け込み、職員の言う「本当に自宅にいるような」グループホームである。地域で開催される運動会や歩こう会、草取り等、積極的に利用者と一緒に参加している。またホームの行事(そうめん流し・収穫祭・忘年会・餅つき大会等)には、必ず地域の方が参加しており交流が盛んである。地域ボランティアの活動も充実しており、ホームの草取りや畑の管理、食事の盛り付け等、定期的に訪問され、協力支援体制が構築されている。時にはボランティアの方の自宅に招待され、利用者と職員と一緒に、食事やお茶の時間を楽しむ等、地域に馴染んだ暮らしの営みがある。今年度から個別ケアの充実に取り組んでおり、どんな小さな事でも書きとめ、利用者の要望が叶えられるよう支援している。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着サービスの視点を加えた理念を立てた。毎月のミーティングやスタッフ同士、意見交換し、周知を図っている。また、毎朝、壁面に掲示した言葉を利用者様と共に、毎日の日課として大きな声で発声している。	毎朝の日課として、利用者とともに理念を唱和している。外部評価当日も、皆で唱和している光景を見る事ができた。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	自施設のソーメン流しや、もちつき大会、秋の収穫祭、忘年会に参加して頂き、交流を図っている。年2回、会報誌を発行し、研修会の参加や相談窓口となっている。また、地域の運動会や、地域清掃にも参加している。	ホームの行事には必ず地域の方が参加され、一緒にイベントを楽しんでいる。また地域ボランティアの方がホームの掃除や草取り、昼食の盛り付け等の手伝いを定期的に支援している。日々、地域交流・地域支援のある事業所である。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年2回、会報誌を発行し、研修会の参加や相談窓口となっている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回行っている。2ヶ月の活動報告を行い、意見、助言を頂くことで、施設の向上に役立っている。	利用者、家族、地域ボランティア、公民館長、町内会長、民生委員、包括支援センター職員等の参加により、定期的に開催されている。入退所や苦情の報告等を報告し、意見や助言をもらい運営に反映している。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	自治体主催及び、他の研修の講師や実習受け入れ等により、行政と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	施設長への講師依頼が多く、自治体とのやりとりも頻繁に行われている。何かあれば包括支援センターに相談し助言を頂いている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月1回のミーティングにおいて、身体拘束廃止に対する取り組みについて、読みあわせを行い、身体拘束をしないケアの取り組みについて話し合っている。スタッフの身体拘束の現場を発見したら、必ず、管理者及び、地域包括支援センターに、報告するようにしている。常に拘束ゼロに努めている。	定期的に研修を行い身体拘束をしないケアに取り組んで知る。言葉の拘束についても常に指導し、職員の意識付けを行っている。センターにも頼らず見守りでケアを実践している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月1回のミーティングを行い、高齢者虐待防止について取り組み、スタッフ同士、意見交換し、虐待を行わないケアを行っている。スタッフの虐待現場を発見したら、必ず管理者に報告するようにしている。もしくは、地域包括支援センターに通報する。		

福岡県 グループホーム やまびこ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度に関するパンフレットや書籍を揃え職員及び、家族の周知を図っている。	現在、制度を活用している利用者はいない。資料やパンフレットを常設している。年1回家族会で、制度について説明する機会を設けている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に事業所内を見学して頂き、その後、重要事項説明書を用いて、十分な説明を行い、契約を締結している。又、契約書及び、重要事項説明書の内容に変更が生じた時には、変更箇所について、説明を行い、再度書面にて、締結している。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常会話の中から、訴えられた事は、どんな小さな事でも受け入れ、改善に努めている。地域の方と、気楽に交流できる環境を配慮している。定期的に家族会を開催し、意見交換を行ったり、職員と直接話し合う機会を作っている。また、玄関に苦情箱を設置し、毎月郵送する利用者様請求書に「ご意見カード」を同封し、意見集約に取り組んでいる。	定期的な家族会の開催と、月1回の状況報告と請求書を郵送する時に「ご意見カード」を同封し、家族の意見を聞く機会を設けている。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	理事長とマンツーマンで意見交換できる面接を、年に1回設けている。又、職員懇親会や職員慰安旅行も年間行事に加え、職場を離れ、運営者と接点を持てる様に取り組んでいる。	月1回の会議では、法人内の連携も活かしながら、職員全員が参加できるよう配慮され、平等に意見を聞く機会を設けている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	主体性を持って働けるような環境を整備している。又、御家族様等からのお礼やお褒めの言葉は惜しみなく伝え、やりがいのある仕事である事を実感してもらえる様取り組んでいる。研修への参加を積極的に行っている。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用にあたっては、性別や年齢等を理由に採用対象から排除せず、本人の福祉職員としての能力及び可能性を採用基準としている。	採用にあたっては理事長及びスタッフも面接に参加している。主に「笑顔」と「利用者とのかわり方」を重視している。無資格者には資格取得を働きかけ、スキルアップできるよう配慮している。日中の休憩時間も確保されている。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	社内研修において「認知症の人の望ましい接し方及び暮らし」についてグループワークを行い、人権尊重についても考える場を設けている。	社内研修も充実しており、外部から専門的な講師を招いて、認知症及び人権についての研修を行っている。また、講師が医師の場合等は地域の方も参加を呼びかけ、認知症についての理解を深めてもらっている。	

福岡県 グループホーム やまびこ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な社内研修の実施。社外への講演会及び勉強会への参加を促し、スキルアップ出来る環境を考慮している。新人職員、リーダー職員、役職者と段階に応じた社内研修を実施し、組織力の強化と共に、事業所のリーダー職員による新人職員へのOJT教育を行える環境を整え、実行している。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前福岡県高齢者グループホーム協議会会員の他のグループホームとの人事交換研修を行ったが、職員の退職等での人員の入れ替わりにより、継続が難しく具体的に生かされていない。今後は、継続的な交流が可能な同法人内のグループホームいなほ園との交流を深めて行きたいが、職員の補充採用が上手くいかず先延ばしとなっている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人自身から困っていることを聴く機会は、一对一の個人ケアをする事で受けとめる努力を行っている。本人様が話す事で、気持ちが落ち着かれる事で、一对一の個人ケアの取り組みを大切にしている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様の悩み等を親身に受け止め、話しやすい状況を作り、その思いを聞けるように努めている。直接話づらいご家族様の為に、年に1回、希望、要望などの資料を作成し、配布している。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時や電話相談にて職員が家族の要望や悩みを傾聴し、不安解消する為に受容、助言を行っている。又、いつでも来所しやすい雰囲気作りにも努めている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩として尊敬し、時には親しい関係になり、気持ちを共有している。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お誕生日会や行事に参加して頂き、一緒に本人様を支えていく関係を築いている。行事に関わらず、気軽に来て頂ける関係を築き、おやつ作りや、洗濯たたみなどをしながら、利用者様の生活状況やしてほしい要望などを雑談の中で聞き入れている。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのあるお店(飲食店)や、美容院などに、御家族様にも協力して頂き、定期的に行えるよう、支援している。	お友達が遊びに来られたり、配偶者の入院先にお見舞いに行ったりと関係が途切れないよう支援している。	

福岡県 グループホーム やまびこ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に 努めている	利用者様同士の関係を把握し、孤立しないよう に、スタッフが間に入り、よい関係ができるよう、 努めている。気候の良い日には、利用者全員 ウッドデッキに出て、交流の場を設けている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられたり、入院の為、退所された御家族様 と年に2回食事会を行い、良い関係を築いている。 又、会報誌等を通じて活動を報告している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	今だから出来ること、今しか出来ないこと、利用 者様一人ひとりに合わせたケアを心がけている。 利用者様の希望をかなえてあげるため、御家族 様と相談し、協力をお願いしている。	常に日頃の関わりや会話の中で意向を確認 している。どんな小さな事でも書きとめ、要望 が叶えられるよう職員が働きかけている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	ミーティングや面会時に、御家族様より話を聞い たり、生活していく中で、利用者様との会話をす る事で、馴染みな物を見つけ、御家族様に相談し、 持ってきて頂けるものをお願いしている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	申し送り簿、バイタル表、利用者日誌、業務日 誌、出勤時には必ず目を通し、一人ひとりの状況 を把握し、利用者様のペースに合わせて、楽しく 充実した生活を過ごして頂いている。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	月1回のミーティングで、ケアの向上の為、利用 者様一人ひとりのケアプランについて職員全員で 評価を行い見直し、ケアプランに反映している。 又、事前に御家族様の意向を確認し反映してい る。	センター方式を活用している。半年に1回は ケアプランの見直しを行っている。モニタリン グは毎月行い、現状に即しているか職員全 員で話し合っている。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活の中で、実地、経過や、結果、判断を 記録し、一人ひとりの状況を把握しながら、気づ きを発見し、情報を共有している。特に状況が変 わった利用者様がいた場合は、個人票に記録 し、様子観察を行い、介護計画の見直しにも活 かしている。		

福岡県 グループホーム やまびこ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	運営推進会議等で入居者の近況を伝え、本人の願いを伝えると共に、家族の近況等を傾聴しいるような可能性を引き出せるよう努めている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年に2回消防訓練を行っていて、そのうち1回は、消防署の方にも参加して頂き、実施している。また、地域の方やボランティアの方にも参加して、協力していただいている。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御家族様の納得の上、主治医に月2回の往診をお願いしている。又、状況に応じて、御家族様と主治医、事業所と相談し、適切な医療を受けている。	元々のかかりつけ医を尊重し受診の支援を行っている。内科・整形外科の往診が行われている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、看護職の方に来て頂いている。また、利用者様に異常が見られたり、心配事などがあった際には、すぐに連絡をし、アドバイスを頂き、日々、利用者様の健康管理に努めている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族、医療機関等との情報交換に努め、本人が不安なく安心して過ごせるように努めている。又、早期の退院に向けての話し合い相談を行っている。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の意思を第1に尊重し、ご家族、医師、看護職員、介護職員とで協議し、終末期に向けた取り組みを行っている。	契約時に、重度化や終末期のあり方についての説明を行い、時期をみて再度、医師を交えて説明を行い、家族の意向を再確認している。看取りの最期はホームでエンゼルケアを実施し、お見送りしている。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	感染症、誤嚥した時の処理法や、応急手当の訓練などの社内研修を実施している。		

福岡県 グループホーム やまびこ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防訓練を実施している。その際、地域の方にも協力して頂き、一緒に行い、防災について考える機会を持っている。又、毎月のミーティングにおいても防災についての話し合いを行っている。	年2回消防署立会いのもと、夜間想定を含め避難訓練を実施している。毎回地域の方の参加が3～4名あり、ホームの構造を熟知してもらっており、避難場所への誘導の役割をもらっている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの利用者様を尊重し、言葉掛けに気をつけている。個人情報もしっかりと管理している。人生の大先輩として、常に敬語を使用し、プライドを傷つけることなく、うわまの気持ちを持って接している。	ホームの特徴として取材が多く、その都度電話や面会時に説明し同意をもらっている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	起床時や入浴の際に、御自分の好みの服を選んで頂いたり、10時のコーヒータムの際には、何種類か準備し、好みのものを選ぶことで、その人の意思の疎通が図れるように支援している。食事の際には、好まれる物があれば、希望に応じてメニューに取り入れている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日、利用者様一人ひとりのペースに合わせて過ごせるように支援している。"ドライブに行きたい"や、"あんこが食べたい"など利用者様の希望に応じて過ごして頂いている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日、好きな洋服を着て頂いている。又、御家族様とも話し合い、昔から通っている店に行けるよう努めている。排泄後、洗面台の鏡を見ていただき、髪を整えてもらい、少しでもおしゃれに、興味を持って頂くよう配慮している。また、美容師の方に施設に来て頂き、好みのヘアスタイルにして頂くことで、いくつになっても女性らしい気持ちを持って頂いている。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配食サービスだが、希望があれば、メニュー外にも取り入れている。	野菜や魚を中心としたメニューであり、希望があればアルコールも飲むことができる。誕生日には本人が食べたいものを取り入れており、外食することもある。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、水分量及び食事を確認している。また、水分量が少ない方には、チェック表を使用し、一日の水分量の確保に努めている。食事があまりとれない方には、経腸栄養剤(ラコール)を摂取して頂いたり、お茶を好まれない方には、好みのジュースなどを飲んで頂いたり、栄養のバランスや水分確保に努めている。		

福岡県 グループホーム やまびこ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人に入れ歯を洗っていただき、ポリドントにつけて清潔維持している。夜間の入れ歯の管理は、本人に納得を得て、職員が管理している。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックをつけ、排泄のパターンを理解し、排泄介助を行っている。	排泄パターンに合わせて声かけ誘導している。重度の方でも、ポータブルトイレを利用しながら、排泄ケアを行っている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者様にあった飲食物を提供している。バナナジュースを飲んで頂いたり、廊下を歩いて頂いたり、腸の働きがよくなる運動を取り入れている。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	無理矢理にせず、入浴したい人から入っていただき、「気持ちよかった。」と言われる入浴を心がけている。また、時間、曜日を決めず、利用者様の希望や、ペースに合わせてゆっくり楽しく入っていただいている。	気持ち良く入浴してもらいたい、という職員の願いがあり、入浴拒否がある場合は無理強いでせずタイミングを合わせている。希望があれば夜間入浴にも対応しているが、現在希望者はいない。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	プライバシーを守りながら、自室と居間を自由に過ごせる環境にしている。また、休息や安眠の際には、温度調整を行い、快適に過ごして頂いている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルにある、処方箋をみて、薬の用法、用量についてデータで綴じているので、スタッフは常に把握しており、薬が変わった時は、申し送りに記入し、全員目を通し把握する。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	御本人様の好まれる雑誌を提供したり、料理を一緒に作ったり、朝礼のあいさつを日課とし、その日に好まれるおやつ作りをしたりと、楽しく毎日を過ごして頂いている。また、趣味の大正琴を弾いていただいている。		

福岡県 グループホーム やまびこ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>鍵を開けて、いつでも外へ出れるようにしている。また、"どこか行きたい"という希望にドライブや散歩に行き、支援して頂いている。日常会話の中で、行きたいという希望があれば、御家族様と話し合い、出かけられる機会を作り、支援している。</p>	<p>行きたい、食べたい時に行けるよう支援している。佐賀県の小城公園に桜を見に行ったり、回転寿司を食べに行ったりと個別対応による外出を取り組んでいる。</p>	
52		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金の管理が出来ない利用者様は、個人個人所持品を持っていないが、お金を所持していることで、安心される利用者様には、御家族様了解の上、小額のお金を所持して頂いている。</p>		
53		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>御家族様の負担にならない様に、利用者様からの要望があれば、電話をかけたり、手紙を書いて頂いたりして対応している。また、職員の方からも聞いて、電話するようにする。</p>		
54	(22)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有の空間には、季節の草花を飾っている。音に敏感な利用者様には、静かに休める部屋を準備し、快適に生活できるようにしている。</p>	<p>昔ながらの家屋は「和」の空間であり、静かで落ち着いた雰囲気である。ウッドデッキには椅子が置いてあり、いつでも行き来できる。椅子に座って目の前の竹林を見ながら、外の空気を楽しんでいる利用者を見ることができた。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>気のあった利用者様同士、部屋を行き来したり、ウッドデッキで過ごすことで、開放感があり、自然に利用者様が集まってきて、思い思いに楽しく自由に過ごして頂いている。</p>		
56	(23)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者様の居室は、全て、畳とふすまで、昔から住み慣れた環境に近づけて過ごして頂いている。</p>	<p>居室は全て和室である。本人や家族の意向によりベッド又は布団での就寝になっている。レイアウトも自由であり、独自の空間となっている。</p>	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>混乱を防ぐ為に、目印となるものを設置し、理解して頂いている。できることを頂くことで、自信や、喜び、生きがいとなっている。</p>		